

# たまねぎレポート【第440号】



6.22 南あわじ

令和6年6月27日

阪南青果株式会社

## 社内報

5月の天候は、気温は、北・東日本と沖縄・奄美で高かった。降水量は、東・西日本の太平洋側でかなり多かった。日照時間は、北日本の太平洋側と西日本の日本海側で多かった。北海道では、暖かい空気に覆われた日が多かったが、度々寒気が流入して気温の変動が大きかった。6月は全国的に梅雨入りが例年比2週間程度遅れたが、梅雨入りと共に大雨に見舞われた地区もあった。気象庁の7～9月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で高い確率50%、東・西日本で高い確率60%、沖縄・奄美で高い確率70%。降水量は、西日本で平年並みまたは多い確率ともに40%。

月別予報は次の通り。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

## 野菜の市場概況

建値市場の5月の野菜の販売量は、200,977トン前年比91%（前月比99%）。平均単価はkg ¥298前年比121%（前月比100%）。市場別には多少の差はあるが、総じては前年比で数量減の単価高であった。市場別の販売量の前年比と平均単価及び前年比は、札幌市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg ¥282前年比116%。東京市場の販売量は前年比90%、平均単価はkg ¥312前年比121%。名古屋市場の販売量は前年比91%、平均単価はkg ¥294前年比123%。大阪本場販売量は前年比92%、平均単価はkg ¥303前年比122%。福岡市場の販売量は前年比99%、平均単価はkg ¥229前年比124%となっている。

建値（拠点）市場の5月の玉葱の販売量は22,679トンで前年比87%（前月比81%）、平均単価はkg ¥119前年比124%（前月比92%）となっている。今年は、暖冬の影響で府県の極早生産地では、生育の前進化で切

り上がりが早く、後続の早生、中晩生の作柄が今ひとつとなったため、5月の出回り量は前年を大きく下回った。

5月の拠点市場別の玉葱販売量と単価は、札幌市場の販売量は2,356トン前年比83%、平均単価はkg¥120前年比111%。東京市場の販売量は10,304トン前年比85%、平均単価はkg¥123前年比123%。名古屋市場の販売量は4,245トン前年比84%、平均単価はkg¥113前年比127%。大阪本場の販売量は3,377トン前年比90%、平均単価はkg¥122前年比140%。福岡市場の販売量は2,397トン前年比112%、平均単価はkg¥111前年比125%となっている。

東京都中央卸売市場5月の野菜の入荷量は111,515トン前年比90%、前月比(101%)。旬別の前年比は、上旬14%減、中旬20%減、下旬5%増、となっている。平均価格はkg¥312前年比121%(前月比97%)。旬別では、上旬¥313(前年比113%)、中旬¥316(同124%)、下旬¥309(同125%)となっている。

主要15品目で入荷量が前年比増の品目は、ナマシイタケが前年比108%、レタスが103%、ネギが101%、など3品目。前年比減の品目は、バレイショが前年比75%、サトイモが76%、キャベツ・ニンジンが86%、など12品目。価格は前年比全面高傾向で、特に高い品目は、キャベツがkg¥170で前年比202%、ダイコンがkg¥138で152%、バレイショがkg¥236で149%、など3品目。前年比安の品目は、ナマシイタケがkg¥1,017で前年比98%のみで、ネギがkg¥415で100%弱の2品目となっている。

## 東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年 比 (%)	前月比 (%)	単価 (¥/kg)	前年 比 (%)	前月比 (%)
野菜総数	111,515	89.9	101.2	312	120.5	97.2
たまねぎ	10,304	84.8	95.2	123	123.0	86.8
キャベツ	14,698	86.1	91.1	170	201.5	115.7
はくさい	6,271	99.3	118.0	102	120.0	90.3
だいこん	7,289	88.5	90.8	138	151.5	103.8
にんじん	6,822	86.4	107.3	219	135.8	80.2
ばれいしょ	7,191	74.7	91.9	238	149.2	133.0
レタス	7,406	103.1	109.3	172	109.7	62.6
ねぎ	3,645	101.1	104.1	415	99.5	118.9
トマト	6,815	86.9	112.6	388	118.2	89.6
きゅうり	7,411	92.4	121.1	307	129.5	80.0
かぼちゃ	1,758	156.6	87.8	237	46.3	124.7
ながいも	716	111.1	94.8	380	88.5	50.3
れんこん	314	71.4	62.7	687	127.9	111.2
にんにく	215	83.4	117.5	1,108	136.1	93.3

### 玉葱の概況

#### 需要(市場)の動き

##### 東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷販売量は10,304トン、前年比85%(前月比95%)。主力は佐賀物で6,044トン前年比90%、占有率59%前年比4ポイントアップ。北海物が1,512トン前年比55%、占有率15%前年比8ポイントダウン。兵庫物が899トン前年比69%、占有率9%前年比2ポイントダウン。千葉物が483トン前年比150%、占有率5%前年比2ポイントアップ。香川物が315トン前年比127%、占有率3%前年比1ポイントアップ。総平均価格はkg¥123前年比123%(前月比87%)。産地別では、佐賀物はkg¥119前年比131%(前月比73%)。北海物はkg

¥141前年比109%(前月比114%)。兵庫物はkg¥142前年比151%(前月比99%)。千葉物はkg¥よ99前年比118%。香川物はkg¥128前年比142%。となっている。

6月に入り、市場内の動きは落ち着いているが、周辺市場への転送需要が活発で品薄高傾向となった。入荷は主産地の佐賀物の入荷が増えず、兵庫物は指値が高いものの、入荷は思う様にならず、栃木物は中生に切り替わったが、ベト病多発で品質に問題あり、愛知物も少量の入荷に留まっている。当面は品薄高が続きそうだ。

6月1日から20日までの玉葱販売量は、5,259トン前年比75%(前月比78%)、平均単価はkg¥154前年比165%(前月比125%)。産地別に入荷量は兵庫物は前年比増となっているが、その他の産地は主産地の佐賀を始め軒並みに大幅減となっている。産地別の販売量と単価は、佐賀物は1,891トンの入荷で前年比57%、平均単価はkg¥143前年比158%。兵庫物は1,434トン前年比111%、平均単価はkg¥183前年比181%。香川物は574トン前年比96%、平均単価はkg¥163前年比178%。栃木物は208トン前年比72%、平均単価はkg¥139前年比194%。北海物は158トン前年比24%、平均単価はkg¥153前年比130%。となっている。

### **名古屋市場**

名古屋市中央卸売市場の5月の玉葱販売量は4,245トン前年比84%(前月比66%)で前年比、前月比とも減となっている。主力は愛知物で数量は2,166トン前年比88%、占有率は51%で前年比3ポイントアップ。北海物は1,403トン前年比63%、占有率33%前年比10ポイントダウン。兵庫

物は418トン前年比165%、占有率10%、前年比5ポイントアップ。ニュージランド物は118トン前年比266%。総平均単価はkg¥113前年比127%（前月比100%）。産地別の平均単価は、愛知物はkg¥111前年比134%。北海物は¥99前年比113%。兵庫物はkg¥131前年比141%となっている。

6月になり、入荷は減少傾向で増加の見込みはなく、集荷に苦労している。愛知ものは中生種に移行し、L中心の球流れとなったが入荷量は少ない。此の先兵庫物に頼らざるを得ないが、思う様な数量は期待出来ず集荷に苦労が続く予想。

### 大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は3,377トン前年比90%（前月比80%）、前年比、前月比とも大幅減となっている。産地別の販売量は、兵庫物が1,869トン前年比99%（前月比344%）、占有率55%前年比5ポイントアップ。佐賀が914トン前年比95%（前月比135%）、占有率27%前年比2ポイントアップ。愛媛物が252トンで前年比486%、占有率7%前年比6ポイントアップ。大阪物が145トン前年比72%（前月比71%）、占有率4%前年比1ポイントダウン。北海物が101トン前年比16%（前月比4%）、占有率3%前年比13ポイントダウン。総平均単価はkg¥122前年比140%（前月比94%）で、前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、兵庫物はkg¥126前年比151%。佐賀物はkg¥124前年比138%、愛媛物はkg¥81前年比121%。大阪物はkg¥108前年比161%。北海物はkg¥137前年比137%となっている。

6月に入って、兵庫物主力の入荷となったが、産地の価格要請が強く、産

地の強気に追従して相場を上げるも、入荷は思う様に増えず品不足の状態が続いた。佐賀物も兵庫と同じで産地が強気で、先高期待で出荷は先送り状態で入荷増は期待出来ず、品質に難があるものの割安の愛媛物の引き合いが強まった。

6月1日～20日までの玉葱の販売量は2,229トン前年比77%(前月比110%)。平均単価はkg¥119前年比93%(前月比132%)。産地別の販売量と平均単価は、兵庫物は1,590トン前年比104%、平均単価はkg¥165前年比173%。佐賀物は311トン前年比55%、平均単価はkg¥146前年比159%。愛媛物は138トン前年比269%、平均単価kg¥114前年比178%。大阪物は104トン前年比93%、平均単価はkg¥143前年比201%となっている。

### 福岡市場

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱販売量は、2,397トン前年比112%(前月比103%)で、前年比、前月比とも10%増となっている。主力は佐賀物で、販売量は1,748トン前年比145%、占有率73%前年比17ポイントアップ。北海物が356トン前年比62%、占有率15%前年比12ポイントダウン。長崎物が103トン前年比51%、占有率4%で前年比5ポイントダウン。中國物は100トン前年比127%となっている。総平均単価はkg¥111前年比125%(前月比83%)となっている。産地別の平均単価は佐賀物がkg¥107前年比132%。北海物がkg¥130前年比126%。長崎物がkg¥111前年比137%。中國物がkg¥113前年比98%となっている。

6月に入り、主産地の佐賀物の入荷は、減少傾向になり産地に出荷要請をするも、在庫不足で入荷増は期待出来ず、品不足状態が続いた。卸では、

相場を上げながら受注を調整したが、出荷最盛期の昨今、このような状態では先行きどうなるのか不安が募る。

6月1日～20日の玉葱の販売量は1,326トン前年比87%(前月比86%)で前年比、前月比とも2桁減となっている。平均単価はkg¥132前年比157%(前月比120%)で前年比前月比とも2桁高となっている。

### 6月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

#### 【札幌市場】 販売量99トン 強い

北 海 20kgDBL大 ¥3,500～3,000。

佐 賀 20kgDB2L ¥ ~ L ¥4,300～3,700、M ¥4,000～3,500。

#### 【太田市場】 販売量137トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥3,400～3,300、L ¥3,700 ~3,600、M ¥3,300～3,200。

兵 庫 20kgDB2L ¥3,500～ L ¥4,000 ~ M ¥3,500～

栃 木 20kgNT2L ¥3,200 ~ L ¥3,500 ~ M ¥3,000 ~

#### 【名古屋北部市場】 販売量115トン 強保合

愛 知 20kgDB2L ¥2,700 ~2,500、L ¥3,200 ~3,000、M ¥2,800 ~2,600。

兵 庫 20kgDB2L ¥3,500 ~3,300、L ¥4,000～3,800、M ¥3,500 ~3,300。

#### 【大阪本場】 販売量123トン 保合

兵 庫 10kgDB2L ¥1,700 ~1,600、L ¥1,800 ~1,600、M ¥1,700 ~1,500。

兵 庫 20kgDB2L ¥3,200～3,000、L ¥3,600～3,400、M ¥3,500 ~3,300。

愛 媛 10kgDB2L ¥1,100 ~ L ¥1,200～ M ¥

## 【福岡市場】 販売量103トン 弱い

佐 賀10kgDB2L ¥2,000 ~1,700、L ¥2,000 ~1,800、M ¥1,800 ~1,600、

佐 賀 20kgDB2L ¥4,000 ~3,500、 L ¥4,200~3,500、 M ¥4,000 ~3,500。

## 供給(産地)の動き

6月に入り、市況は日々上昇傾向となったことで、主力産地では先高期待感が台頭し、出荷は先送り傾向が強まり、産地相場も日を追って上昇した。今年は全国的に梅雨入りが遅れ、兵庫を始め中小の滋賀・福井などの産地も中晩生の収穫は好天気の中で終了し、品質は意外に良好だった。一方、防除が今ひとつであった佐賀を始め、栃木・新潟等の中小産地の作柄は病害が進行し、作柄は今ひとつであった。6月の出回り量は5月をかなり下回ったが、7月も増加の可能性は低い。

### 府県産地

**佐賀**、収穫は順調に終了したが、他産地と異なり病害によるロス率が高く中晩生・晩生の作柄は不作である。産地の在庫は少なく先高期待感が強まっている。既に、除湿乾燥処理をした物の出荷が開始されているが、JAの入庫量は前年の73%で出荷計画量は2,500トンと言われている。商系のなかには前年比130%を確保した商社もあるが、全体的には少なく、短期貯蔵(困い、吊り玉)のストック全体は前年比70%前後と予想されている。除湿乾燥物はレギュラー品の¥200高の販売を要請している。現在の産地相場は20kg裸値L ¥2,200、M ¥2,000となっている。

**兵庫**、中晩生・晩生の収穫は梅雨入り遅れの天候に恵まれ、6月中旬に順調に終了した。好天に恵まれて、病害が少なく品質は良好である。6月の

後半市況は続伸し、出荷は前進化している。現在の産地相場は現地切り落とし20kg¥2,500の高値となり、困りも吊り玉もこれ以上の手取りは望めないと見て、出荷の前倒しが進んでいる。JAも個人選果を受け付けていることで、集荷量が増えている。現在の選果歩留りは極めて良好でロス率が少ない。昨今では、先高期待で短期貯蔵の冷蔵入庫も始まっているが、更なる市況高が見込めるか疑問である。

### **北海道産地**

6月20日時点のホクレンの玉葱生育情報では、作業・生育状態は総体的に平年なみと報告されている。平均気温・日照時間は平年を上回り、降水量は平年を下回った。一部の地区では、干ばつにより雨待ちとなっているが、全道的には順調な生育状態となっている。と報告されている。

### **輸入の動き**

5月の輸入は速報値で、22,279トン前年比116%。国内産の4~5月の府県産の作柄が伸び悩み、需給バランスがタイトになったことで、輸入物の関心が深まった。4~5月の国内市況が堅調で、輸入物に割安感傾向が生じたこともあり、5月の輸入は予想を上回った。国別では、中国が20,923トン前年比116%、ニュージーランドが705トン前年比97%。オーストラリアが626トン前年比171%。となっている。

**中国**、現在の産地は山東省で、天候不順で生産減と言われている。現在の日本向け価格は、剥き玉20kg、C&F・\$6.00。浜渡し原価 ¥1,475、皮付き\$5.5であるが、産地は値上がり傾向にある。

**ニュージーランド**、日本向けの価格は、7~8cm、C&F・¥1,475、此の先夏場に向けたリーファ積となれば¥200高の¥1,675となる。

## 7月の市況見通し

7月の府県産地の供給量は、前年比20～25%減と予想される。現在市況は既に近年にない高値水準にあり、需要面で高値疲れが出て荷動きに鈍化傾向が見受けられるが、市場関係者のなかには、7月も品薄感の取り引きが続き、20kg・L・高値 ¥5,000も視野にとの見方もあるが、通常梅雨が明けると酷暑が続き需要の減少傾向が続く。需給バランスからは値下り材料は見当たらないが、日々の市況は天候や入荷量に依り小動きはあるものの、大勢は現状の保合相場が続くと見ている。（笹野敏和記）